

平成 27 年 2 月 23 日

各 位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
(コード番号 : 8303 東証第一部)

「けいはんな学研都市ATRベンチャーNVCC投資事業有限責任組合」への出資について

当行は、日本ベンチャーキャピタル株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長 奥原主一、以下、「NVCC」)が、株式会社国際電気通信基礎技術研究所(京都府相楽郡精華町、代表取締役社長 平田康夫、以下、「ATR」)が有する技術シーズの事業化を目的に平成 27 年 2 月 10 日付で設立した「けいはんな学研都市 ATR ベンチャーNVCC 投資事業有限責任組合(以下、「けいはんな ATR ファンド」)」に対して、出資いたします。

けいはんな ATR ファンドは、「研究機関を中心とした新たな事業創出モデル」の実現を目指して、ATR が保有する脳情報科学、ロボット技術および無線通信分野の技術を核に設立されるベンチャー企業や、その技術を活用するベンチャー企業などへの投資を行います。大学発ベンチャーファンド運営に実績のある NVCC が無限責任組合員(GP)出資を行い、当行は、株式会社産業革新機構(東京都千代田区、代表取締役 社長 能見公一)や事業法人、金融機関などと共同で有限責任組合員(LP)出資を行います。

関西文化学術研究都市(愛称:けいはんな学研都市)の中核研究機関の一つである ATR では、国内外の産官学連携を基に情報通信関連分野における先駆的、独創的研究を進める一方、保有する技術の事業化にも力を入れてきました。当行は、けいはんな ATR ファンドへの出資に加え、NVCC や同ファンドに出資する他の事業法人や金融機関などとの協働による投資先企業への実践的な支援を通じて、研究機関を中心とした新たな事業創出モデルの実現に取り組み、ATR の研究分野における急成長ベンチャー企業群の創出をサポートしてまいります。

当行は、第二次中期経営計画における法人業務戦略の一環として、新事業領域の開拓および地域振興を目指すビジネスインキュベーション業務を推進しています。特に、技術や事業モデルなどにおいて潜在的な成長力を有する中堅・中小企業および新たな事業領域や震災復興を含む地域経済の活性化につながる事業などを注力分野とし、経営課題への多面的なソリューション提供を通じた成長産業の支援・育成を図ります。けいはんな ATR ファンドの設立目的は当行の法人業務戦略との親和性が高いことから、当行では、同ファンドへの出資を通じて、新事業領域の開拓およびイノベーション創出の支援に積極的に取り組んでまいります。

【けいはんな ATR ファンドの概要】

名 称 : けいはんな学研都市ATRベンチャーNVCC投資事業有限責任組合
投 資 対 象 : 株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR)が保有する知的財産を利用している
もしくは将来利用すると ATR が認めるベンチャー企業などの事業者
無限責任組合員 : 日本ベンチャーキャピタル株式会社
有限責任組合員 : (五十音順)オムロンベンチャーズ株式会社、株式会社京都銀行、KDDI 株式会社、
株式会社構造計画研究所、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、株式会社産業
革新機構、サンコール株式会社、株式会社新生銀行、住友電気工業株式会社 ほか
設 立 : 平成 27 年 2 月 10 日
出 資 約 束 金 額 : 最大 50 億円
存 続 期 間 : 平成 36 年(2024 年)6 月 30 日まで

【日本ベンチャーキャピタル株式会社(NVCC)の概要】

名 称 : 日本ベンチャーキャピタル株式会社
代 表 者 : 代表取締役社長 奥原 主一
本社所在地 : 東京本社:東京都千代田区丸の内 2 丁目 4 番 1 号 丸の内ビルディング 34 階
西日本支社:大阪府大阪市中央区今橋 3 丁目 2 番 20 号 洪庵日生ビル 2 階
設 立 : 平成 8 年(1996 年)2 月 1 日
資 本 金 : 20 億 5,000 万円

【株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR)の概要】

名 称 : 株式会社国際電気通信基礎技術研究所
代 表 者 : 代表取締役社長 平田 康夫
本社所在地 : 京都府相楽郡精華町光台2丁目2番2号
設 立 : 昭和61年(1986年)3月22日
資 本 金 : 1億円

以 上